



道路からの動物保護棟外観



※完成イメージ図

ドッグランからの動物保護棟外観

大分県動物愛護管理推進計画(第二次)の目標

平成28年度(犬猫)	平成35年度
引取頭数 2,677頭	1,500頭
殺処分 2,014頭	900頭
譲渡・返還 663頭	600頭
譲渡率 24.8%	40%



大分県の推定飼育頭数(犬) 99,774匹
犬の飼養率 16.5% (6世帯に1世帯)

【整備にあたっての基本方針】

1. 動物を通じて命の大切さを感じる場

- 動物の福祉を考慮した適正な飼養及び保管を図り、動物の命を尊重し、人の生活に配慮した譲渡を推進する。
- 譲渡希望者に対しては、動物の習性や終生飼養等についての教育を行う。
- 災害発生時には被災動物の救護拠点施設として、動物の収容や保護、同行避難者の受け入れを行う。

2. 人と動物の正しい関わり方を学ぶ場

- 多くの人に動物とのふれあいの場、しつけや飼い方教室等による動物との正しい関わり方を学習する場、動物や人の命の尊さについて教育する場を提供する。

3. 人づくり、環境づくりを通じて人と動物の共生を推進する場

- 動物愛護精神の普及啓発を図る上で重要な役割を担っている動物愛護推進員やボランティアの育成や活動・交流・情報発信の場を提供する。
- 人と動物がくつろぎながら交流できるドッグランを併設する。

4. 大分県と大分市の共同設置

- 県と保健所設置市である大分市の共同設置・運営を行うとともに職員を相互に併任とし、それぞれの枠にとられない柔軟な行政サービスの提供を行う。

【事業の概要】

・動物愛護業務の実施

犬、猫の引取・捕獲・収容や苦情等受付、咬傷事故調査や負傷動物の治療・収容等

・譲渡会の開催

譲渡に適した犬猫の常時譲渡や定期的に譲渡会を開催

・動物愛護啓発事業の実施

ドッグランの設置、終生飼養・適正飼養の啓発活動、児童・生徒に対する動物愛護教育

・災害時緊急時の対応

被災動物の避難・救護拠点施設として稼働

【施設の概要】

所在地：大分市大字廻栖野字田吹原3231番地2

敷地面積：19,499.98㎡ ※現みどりマザーランドの一部

建物：

① 管理棟(2,819.00㎡) ※既存施設を活用

指導面談室、図書情報コーナー、会議室、ボランティア等研修室、事務室

② 動物保護棟(992.83㎡)

犬観察室(17頭)、犬隔離室(6頭)、譲渡犬飼養室(28頭)、猫観察室(40頭)、子猫室(20頭)、譲渡猫飼養室(30頭)、猫モデル室(10頭)、検査・治療室、トリミング室、ふれあいコーナー、啓発展示コーナー

付帯施設：ドッグラン(2,412㎡)、多目的広場(1,399㎡)、駐車場等

【総工事費及び管理運営費用の見込み】

総工事費：653,427千円 (うち県負担分:311,714千円)

【財源】〔国 庫〕 30,000千円

〔大分市負担金〕 311,713千円

〔基金繰入金〕 311,372千円

〔一般財源〕 342千円

管理運営費用(見込)：83,068千円/年 ※大分市と折半

(うちドッグラン・多目的広場：11,182千円/年)

収入額(見込)：11,242千円/年

(うち土地建物貸付料：5,343千円/年)

(うちドッグラン利用料：5,899千円/年)

動物愛護センターに係る管理運営のあり方【2. 指定管理者制度・ネーミングライツの検討】

➤ ドッグラン及び多目的広場について指定管理者制度・ネーミングライツの導入

【指定管理者制度を導入する理由】

ドッグランや多目的広場の閉庁日対応や動物愛護に関する各種イベントの企画など、民間事業者等が有するノウハウを活用し、利用者増に向けたサービスの向上や維持管理費の削減を図るため指定管理者制度を導入する。

【ネーミングライツを導入する理由】

保護された動物の適正な個体管理などの経費増に係る新たな収入源の確保を図るためネーミングライツを導入する。



【参考①：全体スケジュール(案)】

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1
建設工事	造成工事	H30.1 起工 動物保護棟新築工事 管理棟改修工事	H30.11 竣工
開所準備		指定管理制度・ネーミングライツ 機運の醸成、イベント、広報	H31.2 開所 開所準備

【参考②指定管理者制度・ネーミングライツのスケジュール(案)】

H30. 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31. 1月
設置管理 条例議決	【指定管理】			事業者公募・選定		議決	
	【ネーミングライツ】		スポンサー公募・選定	合意書調印・ 協定書締結	屋外広告許可申請手続等		サイン新設工事